

高 知 県 土 佐 郡 土 佐 町
さめうら湖周辺整備基本計画

【概要版】

土佐町

• TOSA-CHO •

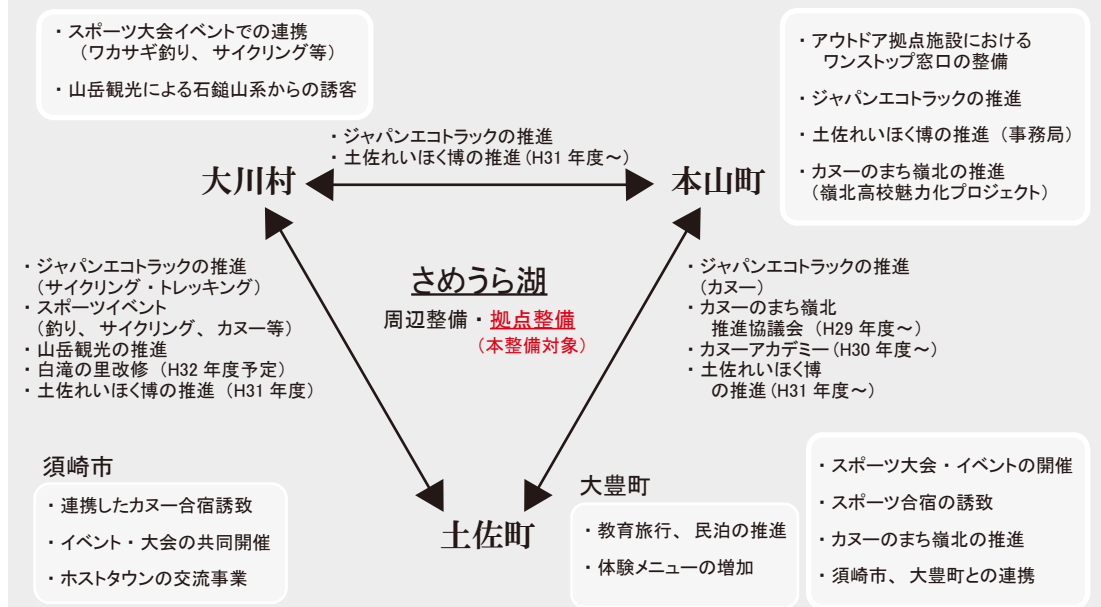


平成 30 年 1 月

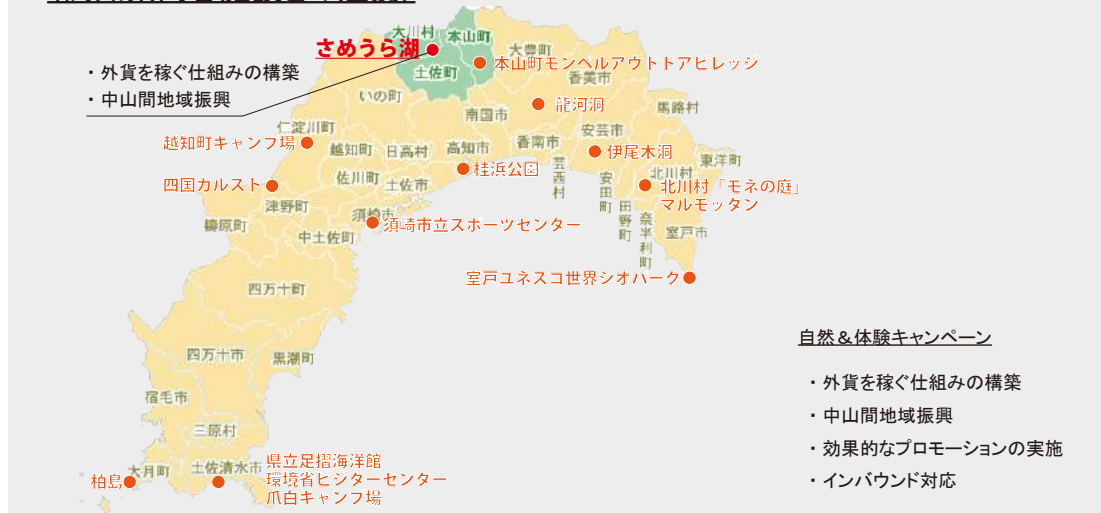
基本計画の概要

豊かな山や川、森の資源に恵まれた嶺北地域は、その自然環境や育まれた文化に様々な魅力を持ち、潜在的に発展しうる可能性を秘めた地域である。一方で、その恵まれた環境を活用しきれていないという実情がある。さめうら湖の周辺環境を「観光客の視点」、「競技者の視点」、「地域住民の視点」から整えて、交流人口の拡大による地域経済の活性化のための取り組みを推進する。

〈各町村の役割と連携への取組〉



〈高知県内各施設との連携〉



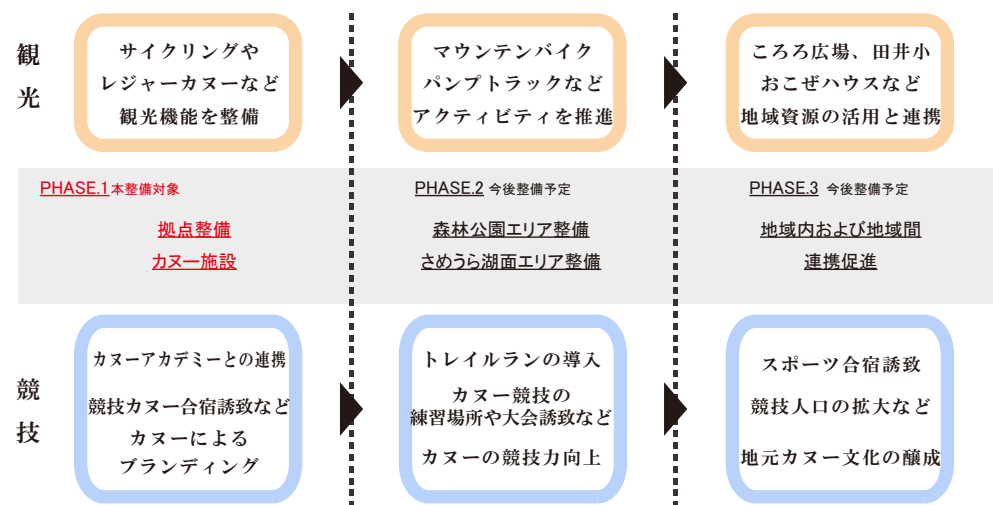
現状と課題

地域資源のリサーチや関係各所へのヒアリング、フィールドワークなど、事前に行なった基礎調査に加えて、本事業の観点から、嶺北地域を訪れた観光客やカヌーなどの競技者として、まちや地域全体でどんなスポーツアクティビティができるか、町民の方々の視点から地域資源として活かしたいことなど、「嶺北地域ならでは」のことについて意見を出し合い、ワークショップを行なった。また、経営的視点も含み、ハードからソフトまでの現状と課題について検証を行なった。

- ・駐車場の整備が必要【観光】【競技】
- ・宿泊施設の整備【観光】【競技】
- ・単発のアクティビティで終わらせず、アクティビティの連携による複数日滞在の促進【観光】
- ・ガイド育成の必要性【観光】
- ・観光情報の整備が必要（施設整備）【観光】
- ・湖面の観光利用のためのルール作りが必要【観光】
- ・湖面へのアクセス性の向上【観光】【競技】
- ・艇庫などのハード整備が必要【競技】

目指すべき姿に向けた施設の必要性や位置付け

カヌー文化を醸成しながら、ひとつの使い方に捉われないスポーツ観光拠点施設づくりを行い、さめうら湖周辺施設全体の整備計画を通じて単体でなく集合体として地域で年月をかけ「育まれる場所」づくりを目指し、さめうら荘やキャンプ場など宿泊可能な施設を活かすことや散策しやすい環境整備のビジョンも含めて5年～10年という期間をもって実現へと導く。



スポーツ観光拠点施設「湖の駅」構想（道の駅との住み分けと相互補完）

（仮称）Lake Station Sameura Base

町外観光客の視点に基づき、地域内周遊を促すレンタサイクルや地形を活かしたスポーツサイクリング、湖面を利用するカヌーや水上ボート、クルージング、拠点の位置付けとして交通アクセスと地域資源を活用したアクティビティが結節し、また発着する場所であることが最大の特徴である。観光客に向けたガイドを育成し、情報のサテライト機能を有する発信拠点ができる拠点づくりによって、観光客の視点、競技者の視点、地域住民の視点から地域間連携や交流促進を行うターミナルとしての「湖の駅」を目指す。スポーツ観光拠点として、道の駅との住み分けを行い、相互補完する関係の中で交流人口を拡大する。

スポーツ観光拠点施設を中心とした周辺施設整備やアクティビティの連携のビジョン

さめうら湖面エリアや森林公園エリアも含んだ整備を視野に入れ、段階的に整備を行っていく。湖面へのアクセス性・安全性、湖面の利用方針の整備、森林公園の安全な歩道の確保、駐車場整備、老朽化したバンガローの対策などを行うことを視野にいれる。

カヌーを中心としてスポーツ合宿を誘致する競技強化拠点へのビジョン

嶺北地域内に止まらず全高知チームやパスウェイシステム（くろしおキッズ等）との連携を促進させ、湖面に加えトレーニングルームやハンガリー式プールの練習環境を提供し、元世界チャンピオンやカヌーマラソン日本代表選手の指導が受けられる取組により合宿誘致を積極化させ県内の競技力向上を図る。



目指す姿とアクティビティの誘致（必要機能）

町外観光客のスポーツ振興、観光、交流促進の視点

■：カヌー施設の必要機能、設備
●：計画敷地内の整備
*：さめうら湖周辺整備（展望）

本整備対象

■ インフォメーションカウンター



観光・イベント情報や宿泊予約との連携などを担い、地域内の他施設と情報共有を行うことで滞在型観光やツーリズムに寄与する。

■ カフェ / ショップ



宿泊に絡めたお土産（地域の特産品）やアウトドアアクティビティに必要なアイテム等、観光客の満足度を高め、地産外販に寄与する。

● サイクリングの拠点整備



様々なサイクリング（レンタサイクル、ポタリングパンクトラックなど）のターミナルおよび維持管理の拠点としての機能を担う。

● 広場（外構整備）



敷地の約1mの高低差を活かし、階段状にすることでカヌーイベントのレクチャー等を行う広場ができて青空を活用した自然体験にも寄与する。

● ミーティングスペース



アクティビティのレクチャーや観光アクティビティの集合場所として活用出来る、パuffersペースとして活用する。

・ さめうら湖面整備



湖面イベントを行うために、護岸整備等を施すことで、アクセスや安全性の向上を図る。また、カヌーの風景を見て楽しめる場所づくりを行う。

・ 森林公園キャンプ場の整備



既存のキャンプ場やバンガロー等、宿泊が出来るポテンシャルに整備を施すことで、自然体験型観光の一端を担う。

・ 歩道整備＋コース作り



さめうら湖～カヌー施設～キャンプ場を結ぶアクティビティの動線計画を行い、ジャパンエコトラックの推進として整備する。

・ 駐車場の確保



宿泊と様々なアクティビティとの連携などを考慮の上、集客や需要に応じて駐車スペースの創出を行う。

嶺北高校カヌー一部の学生及び指導者の視点

本整備対象

■ 艇庫



艇庫の機能以外にも柔軟な使い方も想定し、外部設置のコンテナと補完する。艇庫内にカフェカウンターを設ける一方、カフェ部分を艇庫としてカヌーの収容が可能とすることができる仕様とする。

■ トレーニングルーム



カヌー競技者だけでなく、町民や地域住民も利用できるトレーニング設備を備え、床仕上げについてはクッション性のある仕様とする。

● 屋外トレーニング



カヌーアカデミーによる子どもたちの教育のために晴天時に活用出来る屋外トレーニングスペースを設ける。

■ 屋内パドル練習用プール（ハンガリー式）



カヌーの競技シーズンや天候条件等の夏は蓋をして会議室として使うなど一般利用が出来るような設えも同時に検討する。

■ 事務室



カヌーアカデミーの校長室として機能し、トレーニングルームの運営や合宿誘致の際の事務管理機能を担う。

■ トイレ



イベント時の利用状況として30～40人の利用における便器の適正器具数を考慮し、また視認性の高いユニバーサルデザインを施す。

■ シャワー、更衣室



湖面利用の際の更衣室として主に活用。シャワー6ブースのほかロッカーを併設。

・ コンテナ



施設よりも湖面に近いところに配置することで、湖面へのアクセスの安全性および利便性を向上し、効率的な競技環境づくりを行う。

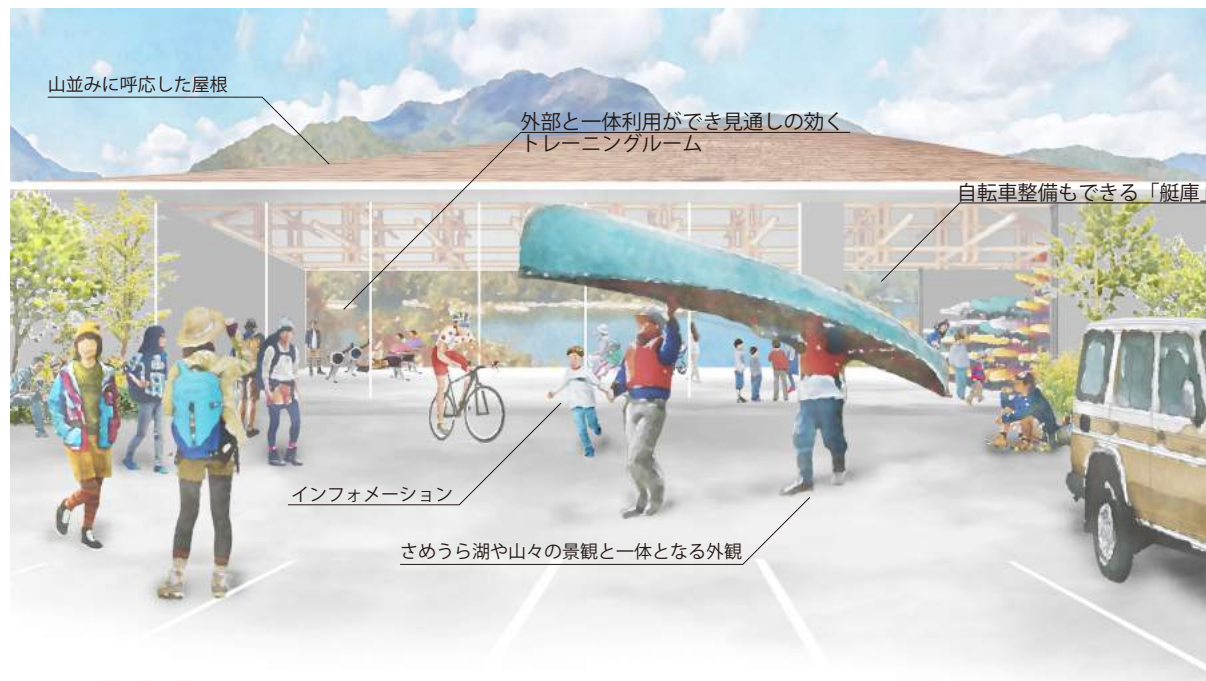
インフォメーション機能、ガイド育成の重要性と周辺施設・アクティビティとの連携

インフォメーションカウンターを設置し施設利用のエントランスを兼ねることで、人の顔が見える運営・オープンな雰囲気を出し、気軽に立ち寄れる機能としてカフェやショップからアクティビティと宿泊のセットプランによる滞在型観光、観光情報提供による周遊観光までを実現するために、必要機能の充足およびガイド人材の育成に取り組める拠点づくりを行う。

本施設だけでなく、周辺施設や地域全体の観光に寄与できる観光施設となるべく発展的に拡張していく施設構成とソフト整備を行っていく。

宿泊機能を持つさめうら荘との一体的な活用により、アクティビティ様々なアクティビティとの連携のもと、複数日のアクティビティセットプラン等、滞在型の「教育・交流・体験」プログラムを目指し、高知県の自然&体験キャンペーンの一翼として位置付ける。

もう一つの軸であるカヌー施設としての機能も、トレーニングなどの活動風景が外部から見えることを意識し、カヌー文化醸成の拠点でもありながら、観光的視点においても活かせる施設づくりを行う。



カヌー・サイクリング・アウトドアキャンプ等、連携するためのフレキシブルな空間



情報案内とカフェスタンド機能を併設したカウンターを設置することで施設利用のエントランスを兼ねることができる。宿泊に絡めたお土産（地域の特産品）やアウトドアアクティビティに必要なアイテム等、地産外商に寄与する。



さめうら荘のレストランと来訪目的をわけ、さめうら湖への眺望を活かし「ここでしか」味わえない雰囲気のカフェを楽しむ。また、レクリエーションや自転車整備等できるスペースを持つ艇庫と隣接させる。



現状敷地を分断している1mの高低差を緩やかな階段とすることでさめうら荘との行き来を円滑にし、レクリエーションや休憩等で活用できる外構計画を行う。